

つる系雑草繁茂防止パネル

トワロンが発売

近大農学部と共同開発

被覆線メーカーのトワロン（本社・大阪府堺市、社長・藤本和隆氏）のグループ会社トワロントレーディングは、近畿大学農学部と共同で、静電気の技術を活用した安全かつ持続可能な設置型つる系雑草繁茂抑制パネル「WCP」を開発、8月1日から販売を開始する。



アーク放電で植物の成長を抑制

繁殖力が高く、強絡まる性質を持つつる系雑草の繁茂は、フェンスの倒壊や近隣からの苦情、除草作業の手間などから課題となっていた。そこで、軽量かつ施工が容易で、雑草の

根を枯死させることなく土壌にも優しい同製品の開発に至った。

「WCP」は「Weed Control Panel」の略。二重のあみで形成されたパネルは、あみ間を静電場として、つる系雑草が侵入するとアーク放電が誘発。成長を抑制する。電源に太陽光発電付電牧器を用いているため、人が触れても感電する危険はない。また、水気のある頂芽のみにスパークするため、枯芽にはアーク放電が発されず、火災の心配もない。

21年の4月から研究をスタートさせ、プロトタイプの実証実験などを重ねてきた。藤本社長は、「除草剤の散布が許されない場所で

も安心して使用できる除草装置がようやく完成した」とし、「軽量なパネル形状にすることでにより容易にフェンスへ設置できることや、フェンスの管理側、除草業者、双方にとつてメリットがあるSDGsな製品であること」をPRしていきたい」と話す。

